



洲  
高

洲本高校正門、門扉のすぐ後にあるのが、H18年に完成した図書館  
(左奥 体育館)



全国総合体育大会ボート競技に出場した男子舵手付きクオドルブルの  
メンバー達=福岡県遠賀川漕艇場

# ご挨拶

同窓會長  
高津匡雄



洲本高校同窓会会員の皆様には、つつがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。又、平素より同窓会に対し、ご支援とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

昨年の総会でご承認されましたように、事業年度、会計年度を4月からと改めました。そして、従来、10月に行われていた総会を6月22日に開きました。その結果、同窓会新聞で開催をお知らせしていましたのを、同窓会のホームページでしかお知らせできませんでしたこと、又、今年は講演会、懇親会が出来なかつたことを深くお詫び申しあげます。

さて、昨年の選抜甲子園出場を果たした野球部を支援するため、設立した特別後援会への寄付金を活用し、魅力ある学校作りや生徒が授業で学べないような見聞を広めるために使わせていただこうと、『洲高生輝き基金』を設立しました。このたびは、様々な最先端の研究施設・大学を訪

来探究東京ツアーや東京工業大学世界文明センターフェローの桜井進氏をお招きして、ユニークを交えながらの数学の魅力を説いた講演会等に使わせていただきました。

今、兵庫県の人口が減少しているますが、淡路島も2万戸の空家があると言われているほど人口が減少しています。明石大橋開通以前は約16万もあつた人口が、約2万も減少して、今は14万人を切っています。このようなか、平成27年度に実施される高校学区再編を間近に控えて、各高校は生き残りを必死に考えています。洲本高校も『洲高生輝き基金』を活用し、魅力ある高校となつて、神戸等の他地区から生徒が入学してくるような高校になることを願っています。そのためにも同窓生皆様のご協力、ご支援をよろしくお願ひします。

最後に、同窓会の皆様のますますのご発展をご祈念申しあげます。

研究施設・企業・大学を訪問しました。多くの卒業生の方のご厚意・ご協力により無事終了しましたことを感謝申上げます。

1日目は、株式会社メディセオを訪問しました。入口で社員の方々による温かい出迎えをいただき、その後、「どうのようなお仕事をされているのか」、「東京の良さ」などについて話を伺いました。また、会議と出張の合間を縫つて、渡辺秀一社長（高23期）がお話し下さいました。「積小為大」「辛い時でも笑顔が大切だ、すると運が回ってくる」など数々の重みのあるお言葉に、生徒たちは真剣な顔で聞き入つておりました。

午後からは東京大学へ行き、夜は同窓会東京支部の方々との懇親会がありました。仕事内容、やりがいや東京での生活のことなど、生徒たちの質問に丁寧に答えていただき、ありがとうございました。

子氏（高52期）の案内で裁判を傍聴、その後、浜辺様がお呼びくださった裁判官のお話を拝聴しました。「被告人と向き合つたときの気持ち」、「人を裁くのではなく罪を裁く」等の、裁判官の生の声に法の世界を感じました。また、JETROでは、「JETROの役割」「貧しい国のために何が出来るか」などを生き生きとお話ししていただきました。さらに宇城智都氏（高63期）の案内で明治大学を見学しました。電通では、鈴木宏法氏（高35期）のお力添えをいただき、2020年東京オリンピック招致のお話や、本年度の創立記念式典で講演された天羽賢次氏（高29期）と仕事をしておられる営業の方に、コマーシャルができるまでの過程をご講義いただきました。その後マーケティング演習を行いました。生徒たちは「働くことの大切さと充実感」を学んだようです。

技術の開発をされている方がお話を伺いました。時代の最先端技術に触れ、生徒たちはいたく感銘を受けたようでした。3日目は瀧川紘氏（高51期）に東京工業大学をご案内いただきました。瀧川氏が東京工業大学の助教授となられるまでの、研究者としての道のりを語ってくださいました。「高校卒業後、様々な人との出会いがあり、その方々のおかげで今の自分がある」と、人ととの縁の大切さをお話しになりました。生徒たちはしみじみと聞き入つておりました。

このように政治・経済・文化の中心地である東京を体感し、様々な仕事や生きがいがあることを生徒たちは学ぶことができました。貴重な機会を賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。

# 未来探究東京ツアーゲームのご報告

(高14期)

教諭  
中川裕美  
(高58期)

研究施設・企業・大学を訪問しました。多くの卒業生の方々のご厚意・ご協力により無事終了しましたことを感謝申上げます。

1日目は、株式会社メディセオを訪問しました。入口で社員の方々による温かい出迎えをいただき、その後、「どうなにお仕事をされているか」、「東京の良さ」などについて話を伺いました。また、会議と出張の合間を縫つて、渡辺秀一社長（高23期）がお話し下さいました。「積小為大」「辛い時でも笑顔が大切だ、すると運が回ってくる」など数々の重みのあるお言葉に、生徒たちは真剣な顔で聞き入つておりました。

午後からは東京大学へ行き、夜は同窓会東京支部の方々との懇親会がありました。仕事内容、やりがいや東京での生活のことなど、生徒たちの質問に丁寧に答えていただき、ありがとうございました。

2日目からは、文型と理型

子氏（高52期）の案内で裁判を傍聴、その後、浜辺様がお呼びくださった裁判官のお話を拝聴しました。「被告人と向き合つたときの気持ち」、「人を裁くのではなく罪を裁く」等の、裁判官の生の声に法の世界を感じました。また、JETROでは、「JETROの役割」「貧しい国のために何が出来るか」などを生き生きとお話ししていただきました。さらに宇城智都氏（高63期）の案内で明治大学を見学しました。電通では、鈴木宏法氏（高35期）のお力添えをいただき、2020年東京オリンピック招致のお話や、本年度の創立記念式典で講演された天羽賢次氏（高29期）と仕事をしておられる営業の方に、コマーシャルができるまでの過程をご講義いただきました。その後マーケティング演習を行いました。生徒たちは「働くことの大切さと充実感」を学んだようです。

技術の開発をされている方がお話を伺いました。時代の最先端技術に触れ、生徒たちはいたく感銘を受けたようでした。3日目は瀧川紘氏（高51期）に東京工業大学をご案内いただきました。瀧川氏が東京工業大学の助教授となられるまでの、研究者としての道のりを語ってくださいました。「高校卒業後、様々な人との出会いがあり、その方々のおかげで今の自分がある」と、人ととの縁の大切さをお話しになりました。生徒たちはしみじみと聞き入つておりました。

このように政治・経済・文化の中心地である東京を体感し、様々な仕事や生きがいがあることを生徒たちは学ぶことができました。貴重な機会を賜りましたことを、厚くお礼申し上げます。



# ごあいさつ

校長 越田佳孝



4月1日付けで赤坂前校長の後任として着任しました越田学校の同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動にご理解とご支援を賜っております。ご厚く御礼申し上げます。

5月9日には定時制で細川末勝さん(定10)を、10日には全日制で天羽賢次さん(洲高29)を迎えて、創立記念講演会を開催しました。特に「ロンドンオリンピック日本代表選手の栄養支援活動」と題し、味の素株式会社スポーツユニトリション部部長としての活躍を紹介していただいた天羽賢次さんのお話では、北島康介はじめ世界で活躍する日本のアスリートの陰に、洲高OBの支援があったことに生徒たちは感動し、聞き入っていました。

5月9日には定時制で細川末勝さん(定10)を、10日には全日制で天羽賢次さん(洲高29)を迎えて、創立記念講演会を開催しました。特に「ロンドンオリンピック日本代表選手の栄養支援活動」と題し、味の素株式会社スポーツユニトリション部部長としての活躍を紹介していただいた天羽賢次さんのお話では、北島康介はじめ世界で活躍する日本のアスリートの陰に、洲高OBの支援があったことに生徒たちは感動し、聞き入っていました。

5月9日(木)、生徒集会室で、洲本高校定時制第66回創立記念式が催されました。記念講演は本校定時制10期生の細川末勝さんが「3歩歩んで2歩後退」と題してお話し下さいました。細川さんは郵便局長時代の話や、洲本城案内ボランティアとしての活動の話、洲本城の歴史にみる「3歩歩んで2歩後退」など、様々な内容をわかりやすくお話し下さいました。また、昨年度の行事をスライドで鑑賞して各行動信し、信頼される学校として飛躍していかなければなりません。職員一同精励していく所存ですので、これまで以上のご支援をお願い申し上げます。

・洲本城ボランティアガイドをお聞きして、先輩の中に郵便局長にまでなられた方がいらっしゃることを知り、大変希望が持てました。私も欲張らず「3歩歩んで2歩後退」の精神を忘れず、コツコツ頑張っていきたいです。(4年男子)

・細川さんのプロフィールを听完きして、先輩の中に郵便局長にまでなられた方がいらっしゃることを深くお詫びいたします。正しい写真は同窓会ホームページに掲載しております。

## 第116回創立記念式典

生徒会書記長 成瀬潮里



第116回創立記念講演に味の素のスポーツニュートリショーンの部長である天羽賢次さん(高29期)が「ロンドンオリンピック日本代表選手団の栄養支援活動」というテーマでお話をしてくださいました。

垣の話についてくわしく知ることが出来て良かつたです。(1年女子)

神を忘れず、コツコツ頑張っていきたいです。(4年男子)



を支えるという偉業を成してから何を学んで次にどうつながるか努力することで、大きな成功をつかむことができる改めて分かりました。「人生とは挫折の連続である」この言葉に私は深く感銘を受けました。自身の過去の失敗談を、まじえながら話された言葉は、失敗をおそれすぎてしまふ私に失敗をおそれず前向きに頑張らなければいけないと勇気を与えて下さいました。これから様々な壁にぶつかる時にきててもめげずに努力を続け、成功をつかみたいと強く思いました。

を、そしてその後の生き方を創り上げてくれた礎に「洲高での3年間」があつたのでしょう。だから「母校」なのです。「母校」とは卒業した学校の美称であり敬称であります。英語では alma mater (アルマ・メイター)。もともとラテン語で「恵み深き母」を意味し、日本語の「母校」と同じ語感を持つことばです。「人には二度生まれる。一度は存在するために」(『エミール』)といつたのはルソーでしたが、この二つのことを合わせて考えてみると、「人として生きる」いわゆる「第二の誕生」に係わる教育を生業(なりわい)とするものの一人として、身の引き締まる思いがいたします。今、ふるさと淡路の教育は、これまで果たしてきた「人

のメダル獲得に貢献されました。このように私たちの先輩が世界で活躍するアスリート

天羽さんは、少年時代スポーツを支える仕事に就き、現在ではオリンピック日本代表選手団が世界で勝ち抜いてされています。2012年に開催されたロンドンオリンピックでは代表選手に「アミノバイタル」を供給し、史上最多のメダル獲得に貢献されました。このように私たちの先輩が世界で活躍するアスリート

の言葉に私は深く感銘を受けました。自身の過去の失敗談を、まじえながら話された言葉は、失敗をおそれすぎてしまふ私に失敗をおそれず前向きに頑張らなければいけないと勇気を与えて下さいました。これから様々な壁にぶつかる時にきててもめげずに努力を続け、成功をつかみたいと強く思いました。

### お詫び

昨年度発行の同窓会報3ページ時制第65回創立記念式典の写真に誤りがありました。同窓会及び関係の皆様には、ご迷惑をおかけしました。正しい写真は同窓会ホームページに掲載しております。

# 恩師からのおメッセージ

## 第二応援歌

### 「未知に真赤な帆をはつて」



「この詞に作曲してみませ

んか」

昭和54年5月9日、洲本市民会館に於て、洲本高校創立82周年記念式典が開催された。

記念講演では、第7回卒業生「阿久悠（深田公之）氏」に講師をお願いした。すでに日本中に阿久悠と云う作詞家を知らない者が無いほどの、大作詞家。当日は、同窓会員・全職員・全生徒で満席、そんな中、作詞家としていかにアントナを高く、情報を集め時代を読み、チャンスをつかむ、最後に、「お土産です。」と、未知に真赤な帆をはつて」と題した歌詞の書かれた原稿用紙を手に突然壇上から会場に呼びかけられた。誰も予想すらしなかったためか、1200人の誰も静かになり、手を上げる人物もなく、後日校内で再募集を行なった。5月末の締め切りまでに10

鍛 瞳 彦

(高14期)

曲の応募があり、校内で職員5名による審査、公平を期すため、すべて番号で発表し演奏した。3曲が選ばれさつそくこの3曲を阿久氏に審査いた。ただ、私の作品が選ばれ

阿久氏からの便りには、編曲は現代の若者の感覚にあう工夫をとの注文があり、さっそく、編曲にかかり、7月上旬になんとか完成、ピアノ伴奏と吹奏楽用とで録音、一応の完成を見た。阿久氏も希望されたように、私も、これぞ応援歌のような、マーチ風には作りたくなかつたために、年配の方から少々歌いづらいとのご指摘もあつたが、昨年野球部がひさしぶりに選抜大会に出場し、甲子園球場にこの応援歌が流れ、私自身大いに感動し又、しっかりと歌いでいっぱいである。阿久氏に

## 平成24年度洲高東京支部活動概要報告

1	役員会	2月・3月・5月・7月・9月・10月の計
6	回開催	会報作成会議、総会・懇親会開催準備会議、総会・懇親会
1	役員会	2月・3月・5月・7月・9月・10月の計
2	兵庫県東京事務所主催、兵庫県の各高等学校同窓会	東京支部役員14名との歓迎会
3	東京支部の役員会合に出席	懇親会を行いました。
4	洲高生「未来探求東京ツアーワーク」交流会実施	東京兵庫県人会総会交流会に出席
5	東京支部会報「東京・洲高」第6号を発刊	各期の同期会だよりや洲高生「未来探求東京ツアーワーク」交流会の状況、洲高の進学状況・各クラブ活動の状況等を記事に満載して首都圏在住洲高同窓生約1000名に総会案内をかけて会報を送りました。
6	11月23日(金)祝日 洲高東京支部総会・懇親会を東京	最後には、全員で洲高校歌を合唱し、お土産の淡路特産品とビンゴゲームの景品を手に再会を約束しました。

平成25年2月24日(日)午後

五時から定時制同窓の集いを行で細川末勝会長の挨拶、各種報告も明瞭に終りました。

また、武中教頭先生より洲本高等学校定時制課程の現状と報告をうけました。

最後に第13期生の佐和孝太郎さんのバンザイで終り、第15期生の細川良美さんより来年の定時制の集いは2月から5月に変更する説明があり、又来年も元気で会いましょうで閉会しました。(通信員片岡)

## 平成24年度定時制課程同窓の集い

特第2期生の奥井斎さんのカンパイで始まり、皆さんのがんばりで終りました。

近況報告をうけ、踊りあり歌あり大盛り上りました。



# 活躍する同窓生の姿

## ドラゴンクエストシリーズ



ゲームデザイナー 堀井 雄二  
(高24期)

ボクがコンピューターでゲームを作り始めて、30年近くになりますが、じつはボクが高校生の頃は、世の中にまだゲームデザイナーという職業が存在しませんでした。では高校時代、ボクが何を目指していたかと言うと、じつはマンガ家を目指していました。

(笑)、世の中そう甘くはなくて、やんわり断られたのでした。そんなわけでボクは、大学にいきながらマンガ家を目指すことし、多くの出版社のある東京の大学に進学することにしました。運よく早稲田大学に入学することが出来たので、そこでマンガ研究会に入会しました。ところが当時の大学のマンガ研究会というものは、あまり商業マンガを目指していず、ボクもその影響を受けて、つげ義春さんや林静一さんのようなマンガに染まっていったのでした。その一方、先輩たちに出版社に就職した人も多く、マン研に文字を書く仕事、ライターのようになりますが早いだろうと、描いたマンガの原稿を持って上京。永井豪先生を訪ねました。「おお！ 君、うまいねえ。じゃあ高校を卒業したら、うちに来てくれる？」と言われることを期待したのです。

洲本高校ではマンガ同好会の部長を務めていました。そして高校3年生の夏休み、マンガ家になるには、やはりマンガ家の先生のアシスタントになりました。このままいけば、いつしかボクはマンガよりもライターの仕事をするようになります。なるのが早いだろうと、描いた原稿を持って上京。永井豪先生を訪ねました。

「おお！ 君、うまいねえ。じゃあ高校を卒業したら、うちに来てくれる？」と言われることを期待したのです。事故を起こし内臓破裂。命は

取り留めましたが、1年間、洲本に戻って療養することになりました。そして東京に戻った時は、それまでしていたテレビ局の仕事はなくなり、またライターのアルバイトから再出発でした。その後、セブンティーンや少年ジャンプのライターを経て、ボクがコンピュータと初めて出会ったのは27歳の時でした。そこからプログラミングです。

グ言語を覚えて、ゲームを作りました。というように人生には、いろんなことが起きます。良い事も悪い事も起きますが、そこで終わるわけではなく、続いていることがあります。そして、なにかを始めるとき、遅いという事はないのです。人生はロールプレイングです。



復興に学ぶ『ふるさと』の意味  
(高31期)

東日本大震災からの復興に携わって、三年目になりました。最初は、原発事故の被害者の方々に対する賠償の担当、次に、津波被害地域を中心とする産業の復旧、そして今は、東北経済産業局長として、津波被災地域、原発事故被害地域を含めた復興の加速と、東北地域全体の経済の活性化に向けた取り組みを進めています。赔償の担当の時には、避難されている方々への赔償基準

の説明会などで、厳しい言葉を投げかけられたことが何度もありました。しかし、そうした時にも、ひとりひとりの思いを正面から受け止め、ふるさとを失う喪失感の重さを共有できるようになりました。そして、何度も話し合いをして、賠償支払いのための根拠を整えて、問題を一つ解決した時の喜び。これは、私の職業人生の中で最も貴重な経験の一つです。また、現地の水産加工や地域の商業など、産業の復旧支援では、工場や店を流されてしまい、離れた土地に避難していく中、地域コミュニティを復活させるために、懸命の努力を続ける多くの人々がいることに感銘を受けました。

こうして、被災地の人々や地域の組織とふれあう中で、人間は、地域の中で生き、周囲の人を幸せにしようと努力することで、生きる意味が明確になります。その気持ちは連帯感を生みます。だからこそ、東北の人々は、楽天イーグルスの活躍に熱狂しました。「あまちゃん」や「八重の桜」がヒットしていることを誇りに思うのです。

洲高18期(永久の会)

年ぶりに第4回「永久の会」を開催した。今回のコンセプト「郷愁は心のエッセンス、一度立ち止まり振り返つて、また歩み始めませんか?」の呼びかけに、恩師籠谷強先生、柏谷武彦先生にもご臨席を賜り、総勢73名(男性45名、女性28名)の出席があった。私たち団塊世代1期生も高校卒業後47年、いわゆる「前期高齢者」の域に達してきた。残念なことに物故者が29名もいて寂しいかぎり……(合掌)。しかし参加者は皆、高齢者というにはあまりにも若々しく、現役として仕事にまたボランティア・趣味や遊びにとバリバリ活躍しており、その姿にびっくりもし、随分刺激を受けた。

宴は、籠谷先生の長い講義(?)に始まり、和懷石に舌鼓をうつ。そんな静かなストークに思えたのも束の間、気付ければあちこちで久しぶりの再会を喜び合い、テーブル入り乱れてヒートアップ、賑やかな同窓会ならではの光景が花開いた。やがて恒例の永久の会専属バンド「The Annual Band」(年金受給者達)の軽快な演奏を皮切りに、唱歌「ふるさと」の大合唱。柏谷先生をトツプバッターに続々繰り出され



熱唱の数々。「河内おとこ節」には何人も、会場に会場の盛り上がり手の飛入り出場は最高潮に……。最後はやはり校歌齊唱、そして元気でまた会おう!と約束の一本締め。

名残惜しいか語り尽くせぬか、または歌い足りぬか(?)、2次会会場も満杯に。その後も3次会へと流れていった。

その余韻は後日も止むことなく、洲高18期メーリングリスト(ML)は大ブレークで会員急増中だ。懐かしい友の近況、有益・知的な情報や意見交換、さらに楽しいビル＆カラオケパーティやゴルフコンペの誘い等々、内容は満載多岐だ。

開催  
報告

洲高23期

MLへの加入は、会員の紹介もしくは直接橋本卓司君のメールにアクセスしてね。 (thashi@sanmet.ne.jp) (文責 藤岡大司郎)

クラスごと一人一人の近況報告、各テーブルでは旧交を温め、在校当時の思い出話に花が咲き、みんな高校時代にタイムスリップしているようでした。





去る1月2日(水)エクシブ淡路島に於いて、蛇持、矢尾田、北谷、神田4名の恩師をお迎えして同窓会を開催した。出席者は約70名で、卒業後約30年また50歳を目前に旧交を暖めあつた。長い年月により体型容姿も変わつた人が多く、実際名札がなければ顔と名前が一致しない方もいたようだ。しかし、いろいろ話をする中で思い出話または近況にと話

ました。会員のおしゃべりた  
けで、あつという間に3時間  
半が過ぎてしまつた一次会で  
した。  
洲本高校のこれから益々  
のご繁栄を同期生一同、ご祈  
念申し上げます。また、25年  
度の創立記念日には同期生の  
天羽賢次君が記念講演を行つ  
とのこと、盛会をお祈りして  
います。  
(執筆 酒井規行)

洲高34期

卒業後も連絡を取り合つて、卒業する同士、また20年ぶりに再会する同士、同窓会が始まる前から大いに話に花が咲いていました。この日は、7名の恩師にも参會していただきことができ、総勢130名で同窓会を開催しました。司会の花野慎君の粋でユーモアのある進行で先生方の紹介がされ、恩師を代表して岡本先生からのご挨拶、蛇持先生による乾杯と進んでいきました。両先生からは健康の大切さについてご示唆いただき、アラフォーの私たちにとつては、身につまされる思いがしました。会が始まるときのクラスごとのテーブルに別れ、卒業互いに近況を話したり、卒業

いへ聞いていた。しかし、それから間もなく、先生が会を閉じるにあたり先生方から一言ずつご挨拶をいただきました。45期生の思い出や今だから言える秘話などが披露されました。され、そのたびに会場からは驚きの声が上がったり、絶えず笑いがこぼれていきました。どの先生のお言葉にも私たちに対する温かい愛情が溢れ、一言一句が胸に熱く響いてくるようでした。

最後に参加者全員で歌つた校歌。今では「洲高の若きものが、若き頃共に学ぶ中で深まつた友情と、今回の同窓会で新たに生まれた友情と絆の種が、これからどんどん大きく育ち、実を結んでいくるよう」、第2回、3回と同窓会を開催していくたいと思います。今回

平成25年3月9日にホテルニューアワジグループの夢海遊に於きました、第61期生の第1回目の同窓会を開催いたしました。私たち第61期生もすでに社会人として働いている人もおり、ほとんどが大学を卒業して社会人となる節目の年なので進路報告なども含め、こういった場をもたせていただきました。61期生48名、先生方7名、総勢55名が集いました。卒業式や卒業旅行などの諸事情で参加できない人が多くな出席率は残念ながら良くは



洲高61期

かつたですが、みんな先生方や同級生と進路や思い出話などをして、先生方から一言頂いたりなどし、楽しい時間はあつという間に過ぎていきました。

1次会は2時間半ぐらいで、2次会はWAVEで3時間、高校時代の時に流行した歌などを歌い、高校時代を思い出していました。

また、このように同窓会を開催した時は、ほぼ全員が出席できるような同窓会にしようと約束し、今回お忙しい中出席してくださった先生方、同級生の皆様に感謝すると共に、「同窓会という「大切な時間」を明日への励みとして、自ら理想とする社会人になるべく人生へ歩みを進め邁進することを祈念し、第1回洲本高校61期生同窓会の報告といたします。



(幹事代表 前野峻生)

# 部活動報告①



見事入選を果たし、とびきりの笑顔で大会マスコット「めで.co」と記念撮影＝NHKホール前で

## 放送部

### 第60回NHK杯全国高校放送コンテスト 全国大会

平成25年7月25日  
於：東京 NHKホール

テレビドキュメント部門 入選  
「ここから」

「来年も、5年連続全国大会に出場できる  
よう頑張りたいと思います。」

部長 西山かなめ

## 自然科学部

### 自然科学部門発表会

平成25年8月2日

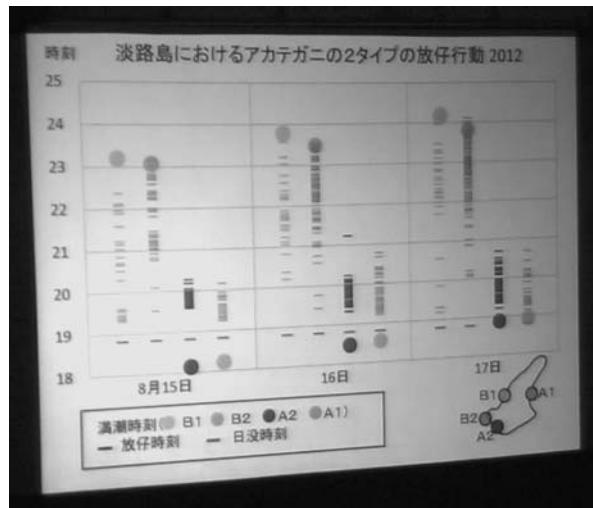
於：長崎県 島原文化会館大ホール

#### 研究発表

「淡路島におけるアカテガニの放仔行動」

「約2年間の研究の集大成を全国大会という場で発表することができて、とても光栄に思います。今年は津名高校生物部と合同発表だったので津名高校の子たちと交流を深めることもできました。」

部長 成瀬 潮里



発表作品の一コマ＝大会会場にて

## 水泳部

### 第67回近畿高等学校選手権水泳競技大会

平成25年7月22日～24日  
於：京都 アクアリーナ

清水絵梨香（写真左）（種目400m個人メドレー）

今回の大会でトップスイマーがたくさんいることを実感でき、自分がまだまだだと思いました。

その人たちに少しでも追いつけるようにこれからもがんばっていこうと思います。

松岡 弥玖（写真右）（種目50m・100m自由型）

今年は周りのみんなの速さに驚きました。

この悔しさをバネに来年はインターハイに出場できるようにがんばっていきたいです。



# 部活動報告②



## ボート部

### 全国高等学校総合体育大会ボート競技

平成25年8月2日～6日

於：福岡県 オシガ 遠賀川漕艇場

ダシヨ 男子舵手付きクオドルブル

舵手 吉田一貴

漕ぎ手 美濃大地、柏木裕葵、川端勇輝、井壼大地

女子シングルスカル

籠池美帆

「インターハイを目指して頑張ってきて出場できたことはとても嬉しかったです。力を精一杯出しきれて楽しめました。」

1000メートルを漕ぎ切り、全力を出しきったあの気分は最高!!  
笑顔も最高!!=後方に見える杭はレースのゴール

## 豆知識

「舵手付きクオドルブル」の競技とは、高校生のボート競技の距離は、男子も女子も1000m。

舵手はコックスとも呼ばれ“声”でスピードの指示を出し、舵をとる。

かけ声には「スタートダッシュしよう!!」「コンスタント行こう!!」そして中程では「ミドルスパート!!」

最後は「ラストスパート!!」などがある。

漕ぐピッチは通常1分間に35回前後だが、状況に応じて「2枚上げよう!!」「3枚上げよう」などと指示を出し、それぞれ37回、38回とピッチを上げて漕ぐ。ちなみにラストスパートでは洲高の場合、38回で漕いでいる。正に体力の限界に挑むスポーツといえる。

尚、女子シングルスカルの距離も1000mで競われる。

## 陸上部

### 第66回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会 近畿地区予選会

平成25年6月13日～16日

於：奈良県 コウノイケ 鴻ノ池陸上競技場

男子 4×100mR 中井啓心、柏木愁人、  
川 和克、田平一晃

女子 円盤投げ 原田佳奈

「近畿大会を目標にしてきて、近畿大会に出場することができ、リレーでは淡路記録を出せました。  
たくさんの人々に感謝したいと思います。」

部長 中井 啓心



リレーで淡路新記録を樹立し、はじける笑顔がとってもさわやか!

## 豆知識

4×100mRの従来の淡路記録は、4.2秒4.2で、今回の新記録は、4.1秒8.6で、0.56秒縮めました!

平成23~25年卒

## 進路状況

(現役合格数)

## 1. 国立大学

大学名	25年	24年	23年
秋田大	1		
筑波大		1	
電気通信大			1
金沢大	1		
信州大	1	1	
静岡大	2	1	
滋賀大		1	
京都教育大	1	1	
京都工芸繊維大	2	1	
大阪大	3	1	4
大阪教育大	2	3	1
神戸大	3	4	3
兵庫教育大	2	2	4
奈良教育大	1		1
鳥取大		1	
島根大	1		
岡山大	4	3	4
広島大	1	1	2
徳島大	4	5	7
鳴門教育大	1	3	3
香川大	4	1	3
愛媛大	2		3
高知大	1		4
九州大		2	
福岡教育大	1		
国立大合計	34	32	44

## 2. 公立大学

大学名	25年	24年	23年
茨城県立医療大		1	
首都大東京		1	
金沢美術工芸大	1		
福井県立大		1	
愛知県立大		1	
滋賀県立大		1	
京都府立医大		1	
大阪市立大	2	2	2
大阪府立大	2	1	2
兵庫県立大	6	5	8
神戸市外大		1	
奈良県立大			1
岡山県立大	2	1	
県立広島大		1	
福山市立大	1		
愛媛医療技術大	1	1	
高知工科大	1		
高知県立大			1
北九州市立大		2	
沖縄県立芸大			1
公立大合計	14	21	16

## 3. 私立大学

大学名	25年	24年	23年
酪農学園大	1		
城西大	1		
聖徳大			1
千葉工大			1
青山学院大	1	2	1
学習院大	1		
慶應大		1	
国士館大	1		
芝浦工大			1
順天堂大		2	
上智大	1		
白百合女子大		1	
中央大		1	1
帝京大	1		2
東海大	1		2
東京理大		2	1
日本大			1
日本体育大			1
法政大			2
明治大	3	3	1
早稲田大	1	2	
相模女子大		1	
東京工芸大			1

大学名	25年	24年	23年
金沢工大		2	1
朝日大		1	
愛知工業大			1
金城学院大	1		
中京大		3	1
豊田工大	1		
名古屋商大			1
日本福祉大		1	
名城大		2	
びわこ成蹊大		1	
聖泉大	1		
大谷大		2	
京都外大	5	5	5
京都学園大		1	
京都産業大	14	8	9
京都女子大	4	7	3
京都精華大	2		
京都橘大	4	1	3
京都薬大	1		
京都光華女子大	1		1
同志社大	6	6	13
同志社女子大	5	4	2
花園大	1		
佛教大	12	11	30
立命館大	22	17	16
龍谷大	5	20	12
京都嵯峨芸大			1
追手門学院大			1
大阪音大			1
大阪学院大	1		
大阪経大	2	8	3
大阪芸大	2		3
大阪工大	8	1	8
大阪国際大		1	1
大阪産大	3	2	
大阪商大	1	1	
大阪電気通信大	4	1	2
大阪大谷大	2		1
関西大	24	20	16
関西外大	14	5	6
近畿大	32	36	19
四天王寺大	2		
摂南大		1	8
相愛大			1
帝塚山学院大			3
梅花女子大	1		
阪南大	1		
桃山学院大			1
関西福祉科学大	2		1
大阪人間科学大		1	
千里金蘭大	1		
関西医療大	1		
藍野大	2		3
大阪保健医療大	1		1
大阪物療大			1
芦屋大		1	
関西学院大	18	24	16
甲子園大			1
甲南大	14	16	20
甲南女子大	3	2	2
神戸海星女子大	2	1	
神戸学院大	18	6	20
神戸芸術工科大		1	1
神戸女学院大	2	3	2
神戸女子大	8	7	23
神戸薬大		1	
松蔭女子学院大	1	1	
神戸親和女子大	3	4	4
園田学園女子大	1		
姫路獨協大			1
兵庫大			1
武庫川女子大	14	11	9
流通科学大	1	2	
関西国際大		1	1
関西看護医療大	1	1	

大学名	25年	24年	23年
兵庫医療大	3	6	2
近大姫路大			3
神戸常盤大	4	4	1
宝塚医療大	1	1	
帝塚山大			1
天理大		1	
奈良大		1	1
畿央大	7		
畿央大	1	1	
高野山大	1		
岡山商大			1
岡山理大	6	4	2
吉備国際大	1		
倉敷芸術科学大	2		
環太平洋大			1
広島修道大			1
広島国際大	2		
四国大	1	1	1
徳島文理大	4	4	3
沖縄大			1
私立大合計	319	284	325

## 4. 文部省所管外の大学校

学校名	25年	24年	23年
防衛大学校		1	2
水産大学校			1
大学校合計	1	1	2

## 5. 国公立短大

短大名	25年	24年	23年
倉敷市立短大	1		
島根県大短大部			1
国公立短大合計	1	0	1

## 6. 私立短大

短大名	25年	24年	23年
中日本自動車短大	1		
聖徳大短大部			1
立教女学院短大			1
京都聖母女短大			1
京都外大短大			1
龍谷大短大部			1
関西外大短大部			2
大阪芸術大短大	1		
神戸女短大	6	3	1
神戸常盤短大		1	
神戸山手短大			1
夙川学院短大		2	
園田学園女大短大	1		
聖和大短大		1	1
武庫川女大短大	9	4	8
四国大短大部			1
徳島文理大短大	1		
私立短大合計	19	11	19

## 7. 専門学校

学校名	25年	24年	23年
(株)舞鶴医療セミナー附属看護専門			1
(株)東徳島医療セミナー附属看護専門	1	1	
(株)大阪南医療セミナー附属看護専門	1		
(株)京都医療セミナー附属京都看護専門	1		1
(株)病院附属善通寺看護専門	2		
柏原看護専門	1		1
兵庫県立総合衛生学院専門	1	2	
兵庫県立淡路看護専門	8	1	
京都桂看護専門	1		
社会福祉法人枚方旗育園関西看護専門			1
近畿大学付属看護専門	1		
大阪医療附設看護専門			1
宝塚市立看護専門		1	
関西労災看護専門	1		1
社会保険婦人看護専門	1	1	
神戸市医師会看護専門	3	1	
西宮市医師会看護専門	1	1	
姫路赤十字専門		2	
播磨看護専門	1		

学校名	25年	24年	23年
健康保険鳴門看護専門	2		
善通寺病院附看護専門		1	
香川看護専門		1	
愛媛病院付属看護専門		1	
関西総合リハビリテーション専門	1		1
高知リハビリ専門		1	
神戸総合医療専門		1	2
東洋医療専門	1	1	
兵庫歯科学院専門		1	
関西健康科学専門	1		
神戸総合医療専門	2		
大阪医療福祉専門	2		
日本聴能言語福祉学院	1		
履正社医療スポーツ		1	
ビジュアルアーツ専門	1		
ホスピタリティーリースム専門		1	
国際文化理容美容専門			1
真野美容専門			1
京都美容専門			1
ルートア美容専門			1
関西美容専門			1
高津理容美容専門			1
西日本アメーマークレッジ専門		1	
大阪ピューティアート専門			1
神戸理容美容専門	1		
大原スポーツ&保育専門	1		
神戸動物植物環境専門	1		1
大原簿記専門学校	3	2	3
大阪コミュニケーション専門			1
大阪ビジネスカレッジ専門		1	
大阪ペビイ動物看護専門			1
大阪教育福祉専門			1
大阪美術大附大阪美術専門			1
神戸国際調理製菓			1
神戸製菓専門	1	1	
辻調理師専門	1		
京都建築専門			1
ホンダテクニカルカレッジ関西			1
大原情報デザインアート専門			1
大阪工業技術専門			1
神戸電子専門	1	1	
専門学校合計	32	35	26

## 8. 国家公務員

職種	25年	24年	23年



<tbl\_r cells="4" ix="3" maxcspan="1" maxrspan="1" usedcols="

## 平成24年度 収支決算書

## 平成24年度 事業報告

平成24年8月1日～平成25年3月31日

総 収 入 額	7, 188, 287
総 支 出 額	4, 923, 357
差 引 額	2, 264, 930

## 一般会計

## 1. 収入の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減額	摘要
前年度繰越金	2,060,321	2,060,321	0	
入会金	0	0	0	
会費	5,540,000	5,004,520	△535,480	全日制 705名 2,820,000 定時制 17名 204,000 終身会費・3年会費 1,980,520 総合計 5,004,520
雑収入	1,000	123,446	122,446	預金利息・会員名簿・寄付
合計	7,601,321	7,188,287	△413,034	

## 2. 支出の部

(単位:円)

項目	予算額	決算額	増減額	備考
事業費	4,308,000	3,703,056	604,944	
会報	2,550,000	2,484,578	65,422	印刷代金・郵送費等
総会費	300,000	179,500	120,500	講師謝金・交通費・会場費等
定時制活動費	200,000	200,000	0	講師謝金・交通費・定時制歳時記等
支部活動費	100,000	100,000	0	東京支部へ
ホームページ委員会	100,000	55,188	44,812	ホームページ更新費用
期同窓会通信費	300,000	156,800	143,200	同期会通信費(期の同窓会通信費)
部活動振興費	500,000	298,000	202,000	全国大会・近畿大会 助成金等
報償費	128,000	128,000	0	お琴の先生謝礼金
卒業記念品	0	0	0	卒業証書ホルダー
C D制作費	0	0	0	校歌CD制作費3年に1回制作(入学生に贈呈)
慶弔費	80,000	88,000	△8,000	会員・生徒・職員慶弔費
その他	50,000	12,990	37,010	全日制創立記念講師謝金・交通費等 PR作成費
会議費	150,000	137,000	13,000	役員・理事会等費用
旅費・交通費	150,000	105,000	45,000	東京支部総会へ参加等
事務費	466,000	463,245	2,755	
内通信費	20,000	21,280	△1,280	切手・葉書・電話費等
事務用品	20,000	15,965	4,035	パソコン用品・印刷用紙・事務用品・等
手当	376,000	376,000	0	事務職員手当
職員退職金引当金	50,000	50,000	0	事務職員退職金積み立て
施設・設備費	10,000	3,150	6,850	資料館整備費・栄光への記録等
記念事業基金	500,000	500,000	0	全日制・定時制周年事業等
雑費	30,000	11,906	18,094	
予備費	1,987,321	0	1,987,321	
合計	7,601,321	4,923,357	2,677,964	

上記の出納を検査し、正当かつ正確であることを認めます。

平成25年5月27日

監事 島田 晓通  
川端 通

8月6日 第1回本部役員会	洲本高校 応接室
8月9日 第1回理事会	あやぐもホール
9月1日 同窓会報発行	
10月2日 第1回事業委員会	洲本高校 応接室
10月21日 同窓会総会	洲本市文化体育館
懇親会	タイムアフタータイム
11月23日 東京支部総会	東京霞ヶ関
11月27日 第1回常任理事会	洲本高校 応接室
12月4日 第2回理事会	
役員・理事ならびにOB職員懇親会	夢泉景
2月27日 65期生同窓会入会式	洲本高校 体育館

## &lt; 寄付の報告と御礼 &gt;

下記のみなさまより同窓会へご寄付いただきました。

高女22期	363,592円
洲中45期	20,000円
洲高18期	11,660円
洲高51期	93,872円
定時制課程同窓の集いより	4,102円

ありがとうございました。



6月13、14日開催の文化祭にて  
(左:書道部によるパフォーマンス、右:音楽部によるディズニーソングメドレー)

## 平成二十五年度 定時制課程 同窓の集い(各分校含む)のご案内

議場受付時間 平成二十六年五月十八日(日)  
 所付時 午後四時より 開会 午後五時から  
 題所観光旅館 海月館 洲本市海岸通一-三-十一  
 TEL ○七九九-二二一一〇〇  
 平成二十五年度事業・会計報告  
 平成二十六年度事業・会計計画  
 その他

☆総会参加者全員記念撮影(五時三十分)  
 ☆懇親会(同じ会場にて六時より)  
 金費 一〇、〇〇〇円  
 宿泊希望者 プラス五、〇〇〇円

☆総会参加者は十二月三十日までに左記へご連絡ください。詳しい案内状を送付します。

電話・FAX ○七九九-一三一九七〇八  
 (定時制同窓会長 細川宅)

## 平成26年度 洲本高校同窓会総会のご案内

**日 時 平成26年6月22日(日)**

受付 9:30  
 開会 10:00  
 懇親会 12:00  
 (場所 タイムアフタタイム)

**会 場 洲本市文化体育館2階会議室**

洲本市塩屋1丁目1-17  
 TEL 0799-25-3321

詳細は5月HPでお知らせします。

HPアドレス [www.sukou-dousoukai.com/](http://www.sukou-dousoukai.com/)

洲本高校同窓会

検索

編集後記

4月には淡路島を震源とする洲本市震度6弱の地震がありました。特に市内で多くの家が倒壊するなどの被害が出ました。全国的にも気温40度以上を記録したり、ゲリラ豪雨による大洪水、気圧が不安定なため竜巻が起つたりと自然災害の多い年でした。広報委員会では年1回発行する『同窓会報』を作成しております。同窓生の皆さまへ洲本高校の現況や高生の活躍、懐かしい恩師の顔、活躍する同窓生など、「同窓会報」を通じてお伝えできればと思います。(高31期 池田亮)

## 平成25年度洲本高校同窓会東京支部 総会・懇親会のご案内

開催日時: 平成25年11月23日(土) 勤労感謝の日  
 受付: 10:00 総会: 11:00 懇親会: 12:30

開催場所: 東京霞ヶ関ビル35階「東海大学交友会館」  
 TEL: 03-3581-0121

総会議事: 平成24年度会計決算報告  
 平成25年度予算報告

講演会: 講師 中村恭一(なかむらきょういち)氏  
 演題 「淡路島から世界へ

ー世紀とミレニアムをまたいで」

講師略歴 洲高13期(1961年卒)  
 大阪外国語大学(現・大阪大学外国語学部)  
 英語科卒

米国政府機関アメリカ文化センターを経て毎日新聞記者

1983年(東京)国連職員(国連広報官)となり、国連広報センター、国連人口基金、国連コソボ暫定行政機関などで広報責任者2001年帰国して文教大学国際学部教授2013年同大学定年退職

専門領域 国連平和維持活動

講師の一語 日米文化交流を皮切りに、新聞記者、国連職員、大学教員とそれぞれが異質にしてなお「日本と世界のために」という大きな共通項を持った仕事を渡り歩きました。常に走りながら考えるという日の連続でしたが、とてもエキサイティングな人生でした。その一端をお伝えできればと考えています。

懇親会: 着席でテーブルを囲み、和洋バイキングとお飲み物で懐かしい洲高青春時代を思い出し大いに飲み、語り楽しい一時をみんなで過ごしましょう!

支部年会費: 普通会員1,000円 維持会員3,000円

総会懇親会費: 男性8,000円 女性7,000円

東京支部総会・懇親会のご案内は9月上旬に発送いたしますので、出欠の返事および会費振込みは、10月15日(火)までによろしくお願ひ申し上げます。

洲本高等学校同窓会 東京支部

支部長 松下祐治(昭和40年) 副支部長 古池建一(昭和40年)  
 副支部長 津田喜人(昭和41年) 事務局長 正井敏文(昭和43年)

入会の案内

若い世代の方も気軽に同窓会に参画出来るよう「洲高同窓会東京支部ホームページ」を平成23年から立ち上げております。  
 東京支部ホームページ URL <http://tokyosuko.jp/>  
 会員限定ページのID Rky2010suko  
 会員限定ページのパスワード p8cjurceee  
 是非アクセスして見て下さい。  
 このホームページで東京支部の活動案内等ご覧頂けると思います。  
 尚、東京在住の洲高同窓生の大勢の皆様からは年会費を振り込みして頂き、そして毎年一回は東京霞ヶ関ビル35階会場にて総会と懇親会を開催し活動しております。  
 是非とも東京支部総会に参加してみて下さい。初めての方大歓迎致します。